

なぜなに やま・もり

山や森についてもっと知ろう!

クマはどうして人里に下りてくるようになったのか?

クマの目撃件数は、ここ10年増加傾向にあります(H20:66件⇒H30:323件)。クマの目撃が増えた背景には、どんぐりなどのエサの凶作のほか、「里山」の手入れ不足が挙げられます。里山は、人が燃料に使う薪を得るために管理していた場所で、定期的な木が伐採・利用されていたため、見通しの良い森林が広がっていました。

1 クマは警戒心の強い動物で、隠れる場所となるササやぶなどがいないところには近づきません。



2 昔は住宅地とクマの棲む奥山の間にも里山がありました。人の管理や木材の利用によってクマの隠れる場所が少なかった里山は、クマの住宅地への出没を防いでいました。



3 その後里山は、管理不足や利用する人の減少等により見通しの悪いやぶ状態となり、クマが住宅地まで下りてくるようになりました。



4 山形県では、「やまがた緑環境税」により、見通しの悪いやぶ状態となった里山林の刈払い等を行い、クマの住宅地への出没を防いでいます。



※侵入防止柵の設置はやまがた緑環境税事業対象外

人とクマの共存には、里山を地域のみんなで管理していくことが大切です。

里山、そして森林のこれからについて、改めて考えてみませんか。

※山形県では「やまがた緑環境税」を活用して、手入れの遅れた森林を整備しています。

企業だって 森林づくり♪

「みはらしの丘未来」の森 岡崎医療株 編



○岡崎医療株式会社について
岡崎医療株式会社は、「生きる喜びに満ちた、たくさん笑顔に出会うために」を経営方針とし、病院・診療所、福祉・介護施設等の医療機器設備・衛生材料等を扱う総合会社です。また、山形市内に調剤薬局5店舗を展開、2年前からは生活支援サービス事業を開始しました。生活支援サービスとは掃除や片付け、料理、病院同行等の日常生活の中での困りごとのお手伝いをさせていただくものです。このように当社は、医療・福祉・介護・健康等の分野での事業活動を通して環境問題に正面から積極的に取り組んでいる会社で、昭和35年創業、翌36年4月15日に法人化し、今年60周年を迎えます。

○やまがた絆の森について
当社は、平成22年にエコアクシオン21に登録し、地球温暖化防止のためのいろいろな施策を実施し現在も継続しています。
当社は営業活動に車両40数台を使用していることから、排気ガスが地球環境に与える負荷に対して何かできないかと考え、森づくりに参加することになりました。森林にCO₂を吸収してもらい、少しでも地球温暖化防止に貢献できるのではないかと考えたからです。
平成26年3月、創業60周年に向けての記念事業として、山形県地権者と協定を結び、山形市みはらしの丘に1.2haの里山を借り受け、「やまがた絆の森プロジェクト」をスタートさせました。
同年10月19日、「地域の人々憩いの場となり、次世代へ引き継ぐ森」を造ることを目標に、「みはらしの丘未来の森」と名付け、社員等73名で、153本の木(オオヤマザクラ、ヤマモミジ、イタヤカエデ)を植えました。以降、毎年初夏には下刈り、秋に植樹を行い、これまでに植えた木は750本になりました。
少雨の夏に枯れてしまったり、植えたばかりで背丈の低い木を雑草と一緒に刈ってしまったり、冬は野ウサギにかじられたりと植樹

の成果がなかなか見られませんが、最近やっと木が育っていることを目で感じられるようになりました。もしかしら最初年に植えたオオヤマザクラが花を咲かせ花見ができるようになっていられるかもれません。(年度初めの忙しい時期なので誰も確認していません。)

○今後について

いよいよ今年60周年節目の年です。

これからは樹木の成長度合いを見て補植や除伐、そして毎年元気に生えてくる草との戦いが中心になると思います。また、新しい家々の立ち並ぶところから少し登った所にある「みはらしの丘未来の森」ですが、茂吉の愛した雄大な感王を見渡せる見晴らしの良い場所です。すでに東屋も置いていますが、さらに整備し地域の皆さまから来ていただける場所に行きたいと思っています。

岡崎医療株式会社
総務部 稲毛 美雪



下川の様子



記念撮影



植樹の様子

★やまがた絆の森づくり推進事業★
企業などと森林所有者と県との三者協定による森づくり活動。令和2年2月現在、38企業・団体、34箇所で開催中。

読者プレゼント

抽選で岡崎医療(株)から提供の「生活支援サービス1時間無料券」を10名様にプレゼント。詳しくはP.11をご覧ください。